

大会中止後の今後について

2018年9月24日

日本語テスト学会 会員の皆様へ

日本語テスト学会

会長 渡部良典

2018年度全国研究大会実行委員長 田中洋也

「9月4日～5日頃に渡って日本列島を通過した台風21号」と「9月6日発生の北海道胆振東部地震」によって、被害に遭われた会員の方々とご関係者の方々には、心よりお見舞い申し上げます。

さてこの度は、9月6日発生の北海道胆振東部地震の発生に伴い9月8日および9日に札幌市の北海学園大学で予定されておりました本会2018年度全国研究大会の開催をやむを得ず中止することになりました。

自然災害の発生という不測の事態ではありますが、本会2018年度全国研究大会の直前の中止により、ご発表予定やご参加予定であられた皆様方におかれましては落胆されていることと存じます。

2018年度全国研究大会中止後の今後の対応について、下記の通りいくつかご報告とご連絡がございます。

ご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

記

日本語テスト学会 2018年度全国研究大会中止後の今後の対応について

1. 中止された大会の延期開催等はありません

- ・縮小した代替開催等も検討しました。
- ・しかし、大会開催直前まで開催準備をすべてこなしてきたところで大会中止となり、緊急の大会中止作業並びにその後の残務処理という予定にない想定外の作業をたくさんこなす多大な時間を注ぎ込んでおり余力がないということと、また2019年度全国研究大会の準備作業開始に影響がでることも危惧されると判断しました。
- ・よって、中止された全国研究大会の代替開催等は一切しないことにしました。

2. 『大会発表要綱』（紙媒体）について

- ・『大会発表要綱』（紙媒体）は、会員・非会員・協賛企業団体様すべての方々に対してまだ全く未配布の状態です。
- ・『大会発表要綱』（紙媒体）は一切配布することなく、これから廃棄処分になります。

廃棄処分の理由：

今回発表予定者だった方の研究発表の内容は、他の学会・大会や来年の JLTA 大会でそのまま口頭発表できる資格や自由を（大会を中止した学会である）JLTA は保証すべきと考えております。我々の学問分野では、「二重発表の禁止」つまり「口頭発表の申し込みは、未発表の内容であること。」という規制を設けている学会・大会が多いです。また、近年、「自己剽窃（self-plagiarism）」という概念も台頭し厳しくなってきました。中止した大会の『大会発表要綱』（紙媒体）に掲載されたものと同じ文章を、他の学会の『大会予稿集』等に掲載した時に、「二重発表」や「自己剽窃」といったあらぬ疑いを（後年）持たれかねないため、それが起きないように対策をとる必要があるために、一切配布することなく廃棄処分になります。

3. 『大会発表要綱』（現在学会 HP 上に掲載されている PDF 版）について

- ・現在学会 HP 上に掲載されている PDF 版には、広告ページ等を除いたすべてのページに、「Conference Canceled」と各ページに加筆したうえで、差し替え掲載しました。発表予定だったという証明とするため、「北海道胆振東部地震のために、2018 年度全国研究大会は中止となりました。そのため、本要綱に記載の発表は、未発表の扱いとなります。」と追記しました。

4. 口頭発表予定だった方々の未発表の研究内容について

- ・上述 1 と 2 と 3 の通りですので、「二重発表」や「自己剽窃」のリスクを心配することなく、今回発表予定だった研究内容は他の学会の大会もしくは来年の本会の 2019 年度全国研究大会等でそのまま安心して口頭発表として応募できるものと認識しております。

5. 2018 年度総会について

- ・今年度内の総会の開催を現在検討中です。決定次第、会員の皆様にはご案内申し上げます。

6. 2019 年度全国研究大会について

なお、2019年度全国研究大会は、2019年9月上中旬頃に新潟青陵大学（新潟県新潟市）で開催予定です。本文書作成現在9月11日と12日で調整中であり4月中の決定を予定しています。

上述6点のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上